

1~5月にあり3月に多い。新雪雪崩は10~4月にある。やはり吉田大沢に多い。6合5勺以上では底雪崩は起らない。底雪崩は旋風の暖域で気温が最高、気圧が最低になった時に多い。天気は大体雨である。新雪雪崩は台湾坊主で大雪の時、きっかけは風が北西から西になるとか、風速が急に増した時に多い。気温の最高とは余り関係はないようだ。一般に数日前から積雪が増していること。気温が数日前から高いことが条件らしい。10月が例年より寒い年に多い。

底雪崩

直接的 旋風の暖域→雨と気温上昇→気温最高→発生
 潜在的 数日前の暖気と降雨→積雪不安定化→発生

新雪雪崩

直接的 台湾坊主→ドカ雪不安定化→風向風速変→発生

潜在的 数日前から積雪増加気温上昇→積雪不安定化→発生

(討論) (銀谷) (玲峰山岳会) 気温の最高は(石田) 大抵は山頂でも0°C以上の場合が多い。(大井) 新雪雪崩の時の天気は(石田) 大抵は悪いが、降った直後のこともある。

(猶この内容は「雪氷」Vol. 22, No. 1 に精しく書かれているので論文は省略した)

(奥山・大井記)

静岡と興津の天気のちがい

渡辺 次雄

天気という概念はずいぶんあいまいである。気象観測法〔I〕には「天気とは一般にはある時刻における各気象要素が総合して成立した大気の状態をいう」とあるが、場所を示してない。又ある時刻といっても瞬時的な時刻ではあまり意味がない。おそらくは観測する時間の大きい程、空間的にも広がりをもつような概念であるにちがいない。この性質をしらべるには多くの人による多くの地点の同時観測が必要であるが、気象台ではちょっとやれそうにもない。しかし、地方の中学校などで生徒の共同研究としてやれば、かなり面白い結果がえられるのではないかと思われる。その一つの示唆として静岡と興津の天気のちがいについて気のついたことを述べておきたい。

興津は静岡の東北約14.2kmのところであって、いずれも海に面している。この二地点の間に系統的なちがい

があろうとは想像がつかない。ところが事実はこれに反する。昭和27年1月~12月毎日10時の天気において興津が静岡よりよいか、わるいかの日数をしらべたのが表である。

表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
静岡のよい日	6	9	8	8	7	14	5	3	3	7	4	1
興津のよい日	7	1	3	2	1	6	7	13	6	5	5	4

こうしてみると2~7月は静岡の方が興津より天気が良く、8~1月(10月は例外)の間興津の方が静岡よりも天気がよいということになった。この事実は気象学的に説明を要することである。

気象界消息

1. 中谷教授永眠さる

雪の結晶の研究で国際的に有名な北大教授中谷宇吉郎博士は4月11日骨髄癌のため亡くなられた。享年61才。氏は東京大学物理学科を1925年に卒業するや物理化学研究所に入り、2年後にはアメリカ合衆国、イギリス、ドイツに3年間留学、帰朝後北大教授となり、以後低温科学の研究に献身してこられた。

2. 仁科氏アメリカに出張

本学会会員、気象庁予報課長の仁科伸彦氏はアメリカ合衆国ワシントンで3月26日から4月20日にわたって開かれるWMO第3回シノプテック気象委員会(略称C.S.M.)および同じくワシントンで4月23日から4月25日まで開催されるWMO, COSPAR, IVGG 共催の気象衛星およびロケットのシンポジウムに出席のため3月24日に羽田を立たれた。